

令和3年度第1回幕別町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 令和3年9月30日（木）10時～12時
- 2 開催場所 札内コミュニティプラザ集会室2、札内南小学校（現地視察）
- 3 出席委員（6名）

幕別町長	飯田 晴義
幕別町教育委員会教育長	菅野 勇次
教育委員	小尾 一彦
教育委員	岩谷 史人
教育委員	國安 環
教育委員	東 みどり
- 4 日程
 - (1) 開会挨拶
 - (2) 意見交換
 - ① GIGAスクール構想の進捗状況について
 - ② 小学校の英語・英語活動について（臨時英語指導助手の拡充）
- 5 事務局出席者

幕別町企画総務部長	山岸 伸雄
〃 政策推進課長	白坂 博司
〃 政策推進課副主幹	小寺 博志
幕別町教育委員会教育部長	山端 広和
〃 学校教育課長	西田 建司
〃 生涯学習課長	石田 晋一
〃 学校給食センター所長	鯨岡 健
〃 図書館館長	天羽 徹
〃 学校教育課総務係長	山田 慎一
〃 学校教育課学校教育係長	酒井 貴範
- 6 傍聴者
2名（北海道新聞・十勝毎日新聞社）

7 議事録

【開会挨拶】

(政策推進課長)

定刻となりましたのでただいまから令和3年度第1回幕別町総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、飯田町長からご挨拶を申し上げます。

(町長)

皆さんこんにちは。

総合教育会議が始まって、初の午前開催となりますが、よろしくお願いいたします。

コロナの状況ですが、9月に入って感染者数が減ってきました。1ヶ月以上にわたって続いた緊急事態宣言も今日をもって解除されるということで、ようやく公共施設も皆さんに使っていただけるようになります。なぜ使用できないか等の苦情もある中で、感染予防を第一に考えてそのような対策をとってきました。

ワクチンの接種状況ですが、本町の接種率は1回目が70.3%、2回目が62.79%となっております。懸念しているのは64歳以下の方の接種状況で、2回目は46.29%しか接種を終えておらず、半分以上の方が接種していないということで、年齢別ではおそらく30代、20代、10代が多いかなと思っています。

マスコミには、感染したときの影響やワクチンを接種したときの効果をしっかりと報道していただいて、それぞれの国民が自分で判断してどうするかを決める材料の提供をお願いしたいと思います。町としても引き続き判断材料を提供しながら接種への対応を続けていきたいと考えています。今の状況でいきますと、10月末には接種を希望する方の接種はほぼ完了する予定ですが、町全体の接種率は70%に届くかどうかという状況です。

総合教育会議は当初7月に開催予定でしたが、教育の2本柱であるGAGAスクール、英語教育について、実際の状況を我々の目で見て意見交換をすることのほうがより良い議論ができると考え、本日の開催となりました。この後、早速札内南小学校へ行って実際の授業を見ていただいて、実りのある議論ができればと思います。

町長部局でいうと子育て支援を一生懸命やってきたつもりではありますが、課題が2つあります。1つ目は保育所の待機児童が苦戦している点です。札内青葉保育園の建替えにより、総体定員で30人、未満児で15人の枠が拡大されますが、待機児童がすべて解消されるわけではありません。2つ目はつくし学童保育所についてですが、増築をして第一、第二というふうになっていますが、定員の倍ぐらいの在籍となっている状況です。今日見ていただく札内南小学校の一部を放課後に学童保育所として活用できないかと私から教育委員会へ申し上げているところでありまして、そういう点でも視察も行っていただければと思います。

【総合教育会議意見交換（協議事項の説明のみ）】

（町長）

それでは協議事項に入り意見交換をさせていただきたいと思います。

協議事項1「GIGAスクール構想の進捗状況について」、協議事項2「小学校の英語・英語活動について」の説明をお願いします。

（学校教育課長）

「GIGAスクール構想の進捗状況について」ご説明申し上げます。

資料1をご覧ください。

はじめに、「1 GIGAスクール構想について」であります。記載のとおり、児童生徒一人一台の学習用端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、誰一人取り残すことなく、子供たち一人ひとりに独創性を育む、教育ICT環境の実現に向けた構想であります。

次に、「2 進捗状況について」であります。本町におけるGIGAスクール構想実現に向けた整備につきましては、昨年6月、全ての小中学校で高速大容量の通信ネットワーク環境を形成するための校内通信ネットワーク環境整備工事を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、休業が長期化するなどの緊急事態においても、全ての子供たちの学びを保障できる環境の早期実現に向け、昨年8月、児童生徒1人1台のタブレットの導入を前倒しで進め、いずれも本年2月に完了したところであります。

また、小中学校の教職員がICTを効果的に活用しながら学習指導要領に基づいた指導を確実に実施するためには、指導する教職員が負担なくスキルアップが図られることが重要であり、ICTに係る教職員研修の充実が必要であると考えております。

このため、本年度から教職員を対象とした教育委員会主催の研修を実施しており、具体的には、6月17日に、各小中学校のICT担当者など端末管理を担う方を対象とした管理者操作説明会や、7月29日に、教職員を対象にICT機器の活用についての講座を開催したほか、8月には夏季休業期間中の3日間を利用し、Google社の講師を招き、教育に適した基本ツールと機能の操作方法についての研修会を開催したところであります。

このほか、6月21日に、小中一貫教育における一部の学園において、その学園教職員を対象に、ICTの専門知識を有する教諭を招き、実践例から授業での具体的なタブレット活用方法についての研修会が開催されたところであります。

今後におきましても、その時代の要請に合わせ、ハード面の整備のみならず、ソフト面や教職員への支援を推進しながら、多様な子供たちの一人ひとりの資質・能力が一層確実に育成できるよう努めてまいります。

なお、下段の※印になりますが、今後の更なるタブレットの活用を見据え、本年度、幕別町教育研究所とともに、デジタル教科書・教材など良質なデジタルコンテンツの活用、教科ごとにICTを効果的に活用した学習活動に使用する学習支援ソフト導入などの必要性

について、調査研究を行っておりますことから、調査結果と教職員の意見も踏まえ、導入について学校と協議を進めてまいりたいと考えております。

資料の裏面をご覧くださいと思います。

次に、「3 活用方法について」であります。本年導入したタブレットは、全ての子どもたちの可能性を引き出す質の高い学びを保障する上で、学びの幅を広げる必要不可欠なツールであるため、各学校では徐々にではありますが活用しており、本年度は、授業の中で操作方法を覚え、タブレットに慣れることを第一の目標として進めているところであります。

記載のものは、小学校で、札内南小学校の具体的な取組ではありますが、町内小学校での活用事例といたしましては、小学校低学年では植物の観察や作成した作品を記録用に撮影、保存したり、中学年から高学年では文字の入力や共同作業で意見の書込みを行ったり、修学旅行先の調べ学習などに活用しております。

中学校は、幕別中学校の具体的な取組が記載しておりますが、町内中学校での活用事例といたしましては、発表資料の作成や、持ち帰りでの健康観察などに備えた学校内でのリモート授業を行うなど、児童生徒の習熟度に応じた活用に取り組んでおります。

先ほど申し上げましたとおり、本年度はタブレットに慣れることを目標に掲げていることから、タブレットの活用における先進的な学びの事例は数多くはありませんが、一例を申し上げますと、一学年一人の小規模校同士の合同授業で、オンライン会議用ツールを活用した話し合いを行ったり、修学旅行先で町のプロモーション事業を行うためのPR活動用ポスターのデザインを生徒自らが作成する際に活用するなどの事例があります。

今後は、タブレットの活用による他校とのオンライン合同授業などの先進的な取組や、教職員個々の優良活用事例の発表の場を設けるなどの取組のほか、ICT教育教材の作成方法やリモート授業の進め方など関連情報を目的別にまとめた北海道教育委員会が提供する「ICTポータルサイト」の有効な活用に向けて、町内の教職員と着実に情報共有を図ってまいりたいと考えております。

なお、本日の視察につきましては、札内南小学校の5年1組、33人クラスの国語の授業で、ディベートの準備における活用を予定しております。

次に「小学校の英語・英語活動について」ご説明申し上げます。

資料2をご覧ください。

はじめに、資料2-1の「小学校の英語・英語活動について」であります。

「1 学習指導要領の改訂について」では、記載のとおり、平成29年度の新学習指導要領改訂により、小学校中学年に新たな外国語活動を導入し、音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地（そじ）となる資質・能力を育成することを目的とし、そのうえで、小学校高学年において「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」を加えた教科として外国語を導入し、言語活動を通じて、コミュニケーションを図る

基礎となる資質・能力を育成することを目的としています。

つづいて、「2 英語指導助手の配置について」であります。平成30年度から臨時英語指導助手を配置し、小学校英語のサポートを実施しておりますが、コミュニケーション能力を身に付けるうえで重要であるため、担任教諭では経験できない「本物の外国人」の授業は、子供たちも外国語授業を楽しみにしており、授業以外のコミュニケーションにおいても中学進学に向けて「生きた外国語」に触れることが出来ています。

つづいて、「3 雇用状況について」であります。令和2年度までは、小学校中学年の外国語活動を国際交流員で対応できない不足時間に年間400時間を臨時指導助手で対応していましたが、令和3年度においては、小学校中学年の外国語活動（年間35時間）及び小学校高学年の外国語授業（年間70時間）に国際交流員で不足する時間数を補うため、年間1,089時間の配置を予定しており、こちらで、小学校3年生から6年生までの全ての英語で国際交流員か、英語指導助手が関わるようになっております。

つづいて、「4 小学校の英語・英語活動についてのアンケート（令和3年7月実施）」についてであります。記載の3地区の小学校4、6年生を対象に実施しました。

【実施対象：幕別小学校、忠類小学校、札内南小学校の4・6年生】

※「資料2-2」参照（別紙1：4年生、別紙2：6年生）

資料2-2の「小学校の英語・英語活動についてのアンケート結果の概要」をご覧ください。

こちらは、資料2-3のアンケート結果の概要になるものですが、3つの区分で結果に基づき、「傾向」と「今後の対策」で整理しております。

はじめに、「1 英語の授業全般について」であります。この「傾向」では、設問1「英語の授業は楽しいですか」で、「あまり楽しくない」、「楽しくない」と回答した割合が、4年生よりも6年生のほうが多いことから、学習に、ついていけない、授業の楽しさがうまく伝わっていない等が考えられます。

「今後の対策」としましては、英語に限定せず、教科学習全体の中で基礎学力や学習意欲を培っていく必要があること、また、英語では、「ゲーム」、「フォニックス」などのアクティビティの工夫がさらに必要になってくることが考えられ、中学校からの乗り入れ授業なども効果があると思われるものです。

つづいて、「2 外国人の先生（CIR/ALT）の授業について」であります。この「傾向」では、設問1「英語の授業は楽しいですか」で、「楽しい」、「まあまあ楽しい」と回答した割合より、設問3「外国人の先生の授業は楽しいですか」で、「楽しい」、「まあまあ楽しい」と回答した割合のほうが高く、さらに、設問4「わかりやすいですか」で、「わかりやすい」と回答した割合も非常に高いことから、英語の授業一般に対する評価より、外国人の先生（CIR/ALT）の授業に対する評価のほうが高いと考えられるものです。

また、設問5「外国人の先生の授業の楽しいところ、わかりやすいところ」で、「正しくきれいな発音を教えてくれる」の回答が最も多く、「楽しいゲームで教えてくれる」の回答

も少なくはないことから、「英語が楽しくない」と思っている児童にもアピールできていると考えられます。

また、「やさしい英語で受け答えしてくれる」についても評価が高いことから、児童のリスニングの力がついてきていると考えられるものです。

「今後の対策」としては、少数ではあるが「楽しくない」という児童もいるため、担任等の日本人教員のフォローについても配慮する必要があると考えるものです。

資料の裏面をご覧ください。

つづいて、「3 児童の学習意欲等について」であります。また、「傾向」では、設問6「勉強したことをどんなことに役立てたいですか」で、「外国の人と友達になる」、「いろいろな国を旅行する」の回答が上位に入っております。

また、設問7「授業で取り入れて欲しいこと」で、「回数を増やしてほしい」の回答が最も多いことから、コミュニケーションの手段としての英語という意識が生まれていると考えられるものです。

設問7「授業で取り入れて欲しいこと」では、「書くことの学習を増やしてほしい」の回答も多いことから、文字への興味の強さがみられ、設問2「英語の授業の中で楽しいこと」の「アルファベット」という回答とも合致していると考えます。

また、「外国の小学生との交流」の回答も少なくはないことから、海外の同世代への関心も高まっていると考えられます。CIR/ALTによる、外国の生活の様子についての紹介とも関係していると考えられるものです。

「今後の対策」としては、授業回数増加を求める声も多いことから、時数増については、各学園の特色ある教育課程等の観点から検討の余地があること、また、海外の同世代への関心も高まっているから、ネットを活用した、外国との交流についても検討の余地があると考えられるものです。

なお、本日の視察につきましては、札内南小学校の5年2組、33人クラスの外国語の授業における、英語指導助手の指導の状況を予定しております。

以上で、説明を終わらせていただきます。

これより現地視察としまして札内南小学校のGIGAスクール及び英語の授業風景を見学いたします。コロナ禍ということもありますので、2班に分かれて各授業を見学いただきます。それでは、駐車場へご移動をお願いいたします。

(現地視察)

【総合教育会議意見交換（協議事項の説明のみ）】

（町長）

現地視察お疲れ様でした。協議事項1及び協議事項2につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

（小尾委員）

GIGAスクールですが、タブレットの利用を見て正直圧倒された。時代も変われば教育内容や指導方法もそれに沿ったものへ変わる。ただやはり1つ気になったのは、タブレットの使用により視力低下することへの不安がある。今後の話にはなりますが、低学年も使用することで、眼鏡をかける率がどうなっていくのかという点も注意する必要があると思う。

英語の授業ですが、指導助手は英語圏の方なので子供たちも興味が沸く。ただマスクをしていて口の動きが見えないので、口の動きを見せるということはこのコロナ禍での課題なのかなと思う。

（西田課長）

タブレットの使用時間についてですが、健康保持という部分にはなるかと思いますが、町教育委員会としてタブレットの使用に関する管理運用マニュアルを作成してしまして、使用の際は姿勢を良くして画面に近づきすぎないように注意する、30分程度に1度は遠くの景色を見る等、視力の低下を防ぐとなっています。先ほど、授業をご覧になっておわかりいただけたかと思いますが、現時点では連続での使用は想定しておりません。

（町長）

先ほど見学した授業ではずっと調べものをしているように見えた。小尾委員から視力低下に関する心配の声もあったので、授業を進める上でのルール作りを検討してほしいと思います。

英語独特の発音の重要性については、西田課長も同じ認識を持っていたと思うので、対策は考えていると思います。どうですか。

（西田課長）

英語の発音は日本語にない口の動かし方であるため、口の動きは大事だと感じました。コロナの感染対策という点で、フェイスシールドだけで良いのか、パーテーションが必要か等を今後研究していきたいと考えています。

（町長）

せっかくの授業なので、すぐ実現できるように検討していただきたいと思います。

(東委員)

英語の授業ですが、子供たちの様子を後ろから見ていたので、はっきりとした表情を確認したわけではないが、生き生きと楽しそうに外国語の授業時間を過ごしていて、私たちが小さいときはまったく授業の雰囲気が違うなということに驚きました。今回の会議資料にある英語活動のアンケートで、外国人の先生の授業が楽しいかどうかという質問に「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えたお子さんが多かったように、今日も大きな声で恥ずかしがらずに少しでもネイティブに近い発音を口に出して身につけようと、授業を一生懸命受けていると感じました。少し早い段階で今日のような楽しいことを交えて授業時間を過ごすというのは、子供たちも退屈をしないで英語の授業を過ごせる一つの方法だと実感しました。

GIGAスクールですが、保護者目線で見ってしまったのですが、タブレットが想像していたよりも大きく、使用中に机から落ちてしまわないか少し不安がありました。子供たちの学びたい意欲や関心を高める方法の一つとしてタブレットを使用していくのが良いと思いました。

(町長)

英語の授業については、ゲーム感覚でやっていて、これなら日常的に英語を話すことに早く近づけるのかなと非常に安心しました。

タブレットについては、タブレットでなければと見れないとき等、効果的にここぞというときに使うのが良いと思う。電子教科書になったら持ち帰って予習して復習してってなるとなかなか想像できないが、電子教科書の導入は何年先ぐらいの予定ですか。

(山端部長)

令和6年度が教科書の改訂時期となっており、部分的な導入も含めて、導入が議論される予定です。

(町長)

教科書の検定の問題が出てくるのでどうやって検定するのも疑問ですね。

タブレットの授業では、調べものをしてその後に議論するということなんですが、実はそこを私は言いたかった。授業では終盤から議論をかわすところを見たいなど。私は常々先生方に言っているのは、考える力を養ってくれと。まず疑問に思うことをタブレットでいろいろ調べる中で解決して行って、自分の中で噛み砕いてそれを相手に表現していくことができれば、社会人になっても通用する。タブレットで調べれば答えは出ますが、その答えが正しいかわかりません。いくつもの答えを取捨選択して、その中で解釈していくことが大切だと思うので、近いうちに授業でその議論を見たいと思っています。それが本当

の意味でのタブレットの活用方法だと思いました。

(教育長)

おそらく授業の後半で少し議論する予定だったのではないかなと思います。小学校で、自分でものを調べて自分の意見を整理するところまでいくことは素晴らしいことだと思います。

(國安委員)

子供たちが生き生きとしていて正直びっくりしました。タブレットの授業では、みんな使いこなしていることにすごいなと思いました。英語の授業では、先生が二人体制で、その二人のやりとりが自然で本当に素晴らしいと思いました。

幕別町ではメルローズハイスクールとの交流がありますが、オーストラリアの子供たちとZOOMで話す機会を設けるとか、少しでも話ができるようになりたいという目標を与えてあげると、楽しい会話がゲームだけでなくその機会に活かされるのではないかと思いますので検討していただけたらと思います。

先生の研修のことですけれども、今日見せていただいた2人の先生は本当に素晴らしいと思ったんですが、まだ戸惑っている先生たちもいるのかなと思いますので、これまでの研修内容が動画で見返せる等、自由に振り返って勉強し直せることができれば、すべての先生が自信をもって指導していけるようになるかなと思います。

(町長)

確かに今日の先生のコンビネーションは素晴らしかったと思います。事前の準備をしていたのか、阿吽の呼吸でできていたのか、どうなんですかね。

(西田課長)

普段からあのようなコンビネーションで授業を行っていると思います。日本人の先生は、札内南小学校の主幹教諭の方で、もともと中学校で英語を教えていました。外国の先生は、札内南小学校に張り付くような形にもなっているので、日頃からあのような形で授業をやっていると思います。

(町長)

國安委員から提案があったように、オーストラリアの子供たちと会話できるということを目指して励んでいくということをやっていけば、意欲をもって英語に取り組めると思うので、実現できるように検討してください。

(石田課長)

生涯学習課では、中学生、高校生を対象として、毎年生徒をオーストラリアへ派遣しておりますが、令和2年度はコロナの関係で中止という結果となり、このままいきますと今年度についても向こうへ行くことはできないと考えておりますが、ただ中止にするだけではなく、国際交流員の先生を通じてメルローズハイスクールと何か事業で交流できないかと話を進めております。その中で、先ほど話が出ておりましたZOOMで会話を楽しむことができるのではないかと話が出ています。当然事前の学習が必要となりますが、それを行ったうえで交流をしていきたいと考えています。

(岩谷)

まずは授業の感想ですが、生き生きとした感じの良い授業を見せていただいて本当にありがたいなと思いましたが、思っていた以上にタブレットの使いこなしが進んでいた、発音、イントネーションが進んでいた、よく勉強できているなというのが第一印象です。

GIGAの授業では、子供たちに「タブレットどう？使いやすい？重たくない？画面小さくない？」って聞いたら、聞いた子全員が「使いやすいです」「画面は拡大もできるからちょうど良いです」と答えていたので、良いものがあつたんだなと思いました。ディベート（議論）という言葉が5年生のところに書いてあって少し驚きましたが、日本の学校教育で一番抜けている部分が「議論する」ということなので、4年生、5年生くらいからやっていくのは有意義なことだろうなと思っています。

英語の授業ですが、日本人の先生は留学されていた経験もあるらしいのでネイティブな発音でしゃべられていた。英語指導助手の方は札内南小学校に張り付いているという話もありましたが、休み時間に子供たちと遊んでくれたりして、子供たちとすごく仲が良い。

そこで不安に思ったことは、今回はネイティブな英語を話せる良い先生だったんですが、GIGAにしても英語にしても、担任の先生のスキルが子供たちの学習効果に影響してくることが出てくるのではないかとことです。

もう1つは、会議資料1に記載されている中学生の取組に「Google（グーグル）スライドで発表資料を作成している」とあつたが、皆さんの中にGoogleスライドを使ってプレゼン資料を作っている方っていますか。いないですね。ほとんどはパワーポイントですよ。使っている端末がChrome book（クロームブック）なのでGoogleスライドになってしまうのかなと思います。将来社会に出たときに使えるものを使うというのが今後の課題なのかなと。それはこれから精査していかないといけない。これからデジタル教科書やICTの支援ツールも入ってくると思うので、将来を見据えて何を使うかということを考えていかなければいけないと思いました。

(町長)

岩谷委員が仰ったように、先生のスキルが子供たちの実力に反映されてしまうというの

は本当に心配ですよ。今日の授業のレベルでどのクラスもやってもらえれば良いんですが。教える側の実力差は否めないで、今後急速に検証を行って指導力を上げていく必要があります。社会に出たときにそのまま使えるもので対応するとありましたが、これは大いに考えないとだめですね。

(町長)

私が冒頭の挨拶で申し上げた学童保育所についてですが、札内南小学校の特別支援棟の一部スペースを使用できないという観点でも視察いただきました。

学校側は「体育館の使用であれば良い」とのことでしたが、現在体育館を使用している少年団の活動場所を別に確保してくれたらという条件付きでした。現在の使用状況を見ると、活動場所の確保を別に確保することは難しい。

どうか教育委員の皆さん、子供たちのことを思うのであれば、なんとか活用できるような方向で議論いただければありがたいと思います。活用する期間は5年程度になるかと思えます。喫緊の課題として冒頭に申し上げた、未満児の待機児童やつくし学童保育所の定員が倍ぐらいの在籍となっている状況をなんとか解消したいと考えています。

(東委員)

学童保育の話ではないですが、会議資料1の「GIGAスクール構想について」のところで「誰一人取り残すことなく子供たち一人一人に独創性を育む教育ICT環境の実現に向けた構想」とありますが、支援教室のエリアを見させていただいたときに、支援を受けているお子さんの中で学習障害のあるお子さんのためにタブレットを有効的に使うことはできないかと思いました。例えば、板書をうまく書き写せない、うまく頭に入らないが、同じ内容をタブレットで見ると頭に入ってくるのではないかと、また、自分の気持ちをうまく表に出せないお子さんには、タブレットを活用して自分が思っていることを表に出せるのではないかと思いました。

(西田課長)

先生方と協議しながら、タブレットの有効的な活用を進めていけたらなと思っています。

また、子供たちがいろんな意見をなかなか面と向かって言えない部分に活用できないかということですが、例えば中学校であれば朝の学級活動でのGoogleの活用は進んできてはいますが、アンケート機能も充実しているので、それぞれの性能を活かしながらやっていければと思います。先ほど岩谷委員の話とも重なりますが、主流はマイクロソフト社のWindowsですが、ただGoogleの方も合わせて活用できるという羨ましい話です。今後、どんなものが主流になっていくのかわからないので、いろんな機能を使っていけるようにしていきたいと思っています。

(岩谷委員)

学童保育の使用は放課後ということで、特別支援の児童が使っていないときに使用するものと認識しています。真ん中の広場がとても使いやすいスペースだと思っていました。活用場所を教室まで広げるのか、真ん中のスペースだけを使用するのか、議論の1つになっていけば交渉の余地も出てくるのではないかと思います。

(町長)

7つの教室がありますが、特別支援学級の在籍児童が日常使用していて、いろいろ物が置いてあるので使用は難しいと学校側から意見があったので、在籍児童が下校後に真ん中の広場を活用することを想定していました。勉強したい子もいるので、遊ぶスペースと勉強するスペースを分けた環境づくりをすればうまくいきそうだと思います。

(西田課長)

札内南小学校は長寿命化の改修ということで、今年度は実施設計、来年度から改修事業に入ることになっていますが、その中で外トイレを今後維持するのかということが議論になっています。外から出入りできる特別支援棟の入口があったと思いますが、そこから入って中のトイレを活用するため、外トイレを今後使わないという形で改修の実施内容を考えています。

(町長)

それでは、以上で令和3年度第1回幕別町総合教育会議を終了します。
本日はどうもありがとうございました。